

2022年 3月 27日

## 主 日 礼 拝

①8:30am ②10:30 ③1:30pm ④7:00

司 会 ②石井 秀人兄

奏 楽

祈 禱 ②白川 達男兄

賛 美 聖歌616番 ～父の涙～

詩篇23篇

聖書朗読 ルカによる福音書14章25～35節

特別賛美

メッセージ 「十字架の道のかがやき」

石井 潤 牧師

献 金 聖歌453番 ～栄光イエスにあれ～

〔関西カルバリーの新会堂建築のため〕

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛 美 ～生ける限り～

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！☆  
《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを感謝します。第二礼拝後、「信徒懇談会」を行います。

☆今週の祈り会：○早天祈祷会：明朝6時～。◎祈祷会：木曜午前10時半～  
夜7時半～（大和の祈祷会映像に参加）○準備祈祷会：土曜夜8時～。

★来週の日曜礼拝では誕生祝福式を行います。〈司：石井兄／祈：寺澤政枝姉〉。

☆一年に一回聖書を完読できる！Bible Reading Plan〔3/27－4/3〕

| Date | 日           | 月      | 火      | 水      | 木      | 金      | 土      | 日      |
|------|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 旧約   | 33-34/ヨシュア1 | 2-4    | 5-6    | 7-8    | 9-10   | 11-13  | 14-15  | 16-18  |
| 新約   | ルカ5:1-16    | :17-39 | 6:1-26 | :27-49 | 7:1-23 | :24-50 | 8:1-18 | :19-39 |
| チェック | 〇〇〇〇        | 〇〇〇〇   | 〇〇〇    | 〇〇〇    | 〇〇〇    | 〇〇〇〇   | 〇〇〇    | 〇〇〇〇   |

## 「十字架の道のかがやき」

～最も小さな存在こそが最も大きな存在～

「<sup>27</sup>それなのに神は、知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選び、<sup>28</sup>有力な者を無力な者にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。<sup>29</sup>それは、どんな人間でも、神のみまえに誇ることがないためである。」コリント人への第一の手紙1章27～29節

ヘンリー・ナウエンの遺著となった「わが家への道」の中に『イエスのもたらす平和』という文章があります。その中でヘンリーはまず冒頭で、「平和についてどう書けばいいのでしょうか。ここ数年の間に、わたしの生活はあまりに多くの変化を経験したため、そのことを書く自信を失ってしまいました。数年前だったら、多くの人の前で、どうしたら平和の人になれるか話すことは、いとたやすいことでした。そのことについて話すべき重要なことがあるという確信があったので、ある意味で楽に話すことができました。しかし、このエッセイを書く準備をしながら、自分の心の内に深い空洞、言うべきことが何もないという感覚、言葉にすることの無意味さを感じています。平和と平和を造り出すことについて、また、平和にかかわる霊性について、何か意味深いことを言うことに絶望感さえ覚えます。自分の貧しさがあまりにわたしを身動きさせなくするので、すべてとり止めにしたい誘惑を感じるほどです。」とちよつと不思議な出だしで文章が書かれていきます。このような気持ちにしたのは、彼の人生の大きな転機があったからです。彼は、ハーバード大学で教鞭をとっていたほどの学識高いカトリックの司祭でしたが、そこを辞任して、カナダにある重度の障害をもった人たちの施設で牧者として、働くようになりました。そこでは、会話もできない、自分の事は何一つできないハンディキャップをもった人たちと共に共同生活をするという新たな人生が始まったのです。そこで初めて彼は今まで体験したことの無い境地で世界を見つめるようになり、彼の心に大いなる変化をもたらしたのです。そして、この「平和」を語る部分で、その共同体の中で最も重度の障害をもつ「アダム」の存在から、この人物こそが、その周りの世界に平和を造り出すという能力、神から戴いた特別な賜物を持って、その世界に平和を実現しているということを語り始めます。

「アダムは、この世のものではない平和について、少しずつわたしに教えてくれました。それは、激しい競争をしたり智恵を絞ったり、さらには、ある人がスターになることによって築く平和ではなく、ただ互いに向き合い、調和をもって働くことに根差す平和、わたしたちの誰もが安心できる神の初めの愛について語る平和、弱い者たちの交わりによるコミュニティへとわたしたちを招き続ける平和です。」最も弱い存在こそが、本人は意図していないことだと思いますが、そこに本当の平和が築き上げられているのだとヘンリー・ナウエンは語りました。